

遍照山

第56号

平成29年
9月9日発行

初秋を迎えて

今年の夏も、ものすごく暑かったですね。人間高熱を出したとき、熱を下げるときに氷で身体を冷やすことと同じことがこの自然界で起こることが未来への不安を駆り立てている様なものです。その熱を下げるのに、エアコンは欠かせないものです。と言うことは、エアコンをつけられない方は、命を落とすかありません。田舎は、温度を下げる機能があります。緑の葉をつける植物や木岐、地面、湖などまだ人間が住み続けられる環境が残っています。都会では、アスファルトやコンクリートで温度を下げる機能がないので、日中、夜間の温度を下げることも出来なく、それこそエアコンがなければ、生きて行くことが難しいと言われていました。出来れば、早く涼しい秋が来て、自然に温度が下げられる季節が訪れてほしいのです。

秋は実りの秋です。お米ができ、栗、松茸、ブドウなどおいしいものをいただくことが出来ます。秋はこの一年の中で最も良い季節です。「ああ、日本に生まれて良かった。」という、そんな秋が足音をたててそこにきています。



源信展のツアーを終えて

九月一日、恵心僧都源信の没後一千年忌、特別展「源信の生涯」を振り返って、奈良の国立博物館で源信展の開催なされました。実に、名もない源信が「往生要集」を書き、地獄、極楽

絵を描いて、人々の生きる望みを巧みに念仏の教えと導かれた事を、今一度、後世の人々に語り継がれた展示会ではなかったのではないかと主催された方々に敬意を表したい。

今回のツアーのメインは、源信が編纂した『往生要集』です。人間の生前の行いによって輪廻する六つの世界(六道)であり、とくに地獄、餓鬼、畜生には行かない様に戒めと極楽の素晴らしさが説かれています。そして人間世界の醜悪さをも具体的に伝えることによって、より良い往生方法(死の迎え方)を指南する書物に出会えたことに感慨深いものがありました。

最後に、参加されました方々には、私とご縁をいただいて、感謝申し上げます。またいつかこのような企画を致したときには、是非、御参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。言葉と致します。

此岸と彼岸

私たちの生きる世界は、迷いの世界ともいいます。あれもしたい。あの服が着たい。ご馳走をお腹いっぱい食べたい。と常に迷いは生じる世界のことを此岸と言います。仏教では、私たちが住む「此岸」を凡夫の世界(煩惱にあふれた世界)としている。一方では「彼岸」と言って、仏の世界(煩惱の火が消えた、涅槃の世界)にどうしたら行けるのかを考えてほしいのです。

釈迦は、「人は此岸では真の幸せになれないから、彼岸に渡れ」といい、大きな川を渡る方法を説きました。そこで問題になるのは渡る方法です。中国の三蔵法師は、すべての人が渡れる方法を説いたのです。

釈迦は、最初に川を渡る専門家たちに「出家せよ」と説きました。なぜなら、川を泳ぐ為には、身ひとつでなければ泳げないからです。だから出家して僧侶にならなさい。僧侶は、頭を剃り、衣一枚で、修行をすることを勧めたのです。服を着たまま、あるいは財産など持って行けるわけがない。また、自分一人でも泳ぎきれぬかどうかかわからない。だから、妻子も捨てて、「裸になりなさい」と教えたのです。やがて、出家した者が渡り

きつた後には、必ずすべての人々が渡れる橋が出来る。それがお経を唱えることなのです。これを回向と言います。

お彼岸には、お墓の前、本堂でお経を唱えてもらって、人々の幸せを祈るのです。そうして釈迦のちに人々を導く役割を出家僧たちに託されて、今があるのです。



大蔵経会とは

この高島で、大蔵経会が勤まるのが、戦前からうけつがれて、もう五十年以上となります。先徳は、高島は陸の孤島で、人々の生きる喜びを感じることもなく、人々の暮らしが、質素で、つましくされていたと聞かされてきた。

そこで先徳は、佛教の華々しい世界を描かせるために、春秋二回の法要を高島十八カ寺のお寺で繰り広げることで、人々の文化を創り上げたのではなからうか推察します。

現在では、時代の流れとともに、年一回になり、三日間が二日間になりました。

今後、人口減少していく高島の課題にあった大蔵経会のあり方を検討して行かなければ、十八カ寺が会場をもたなくなる恐れがもうそこにやってくる現実を直視して考え直す時期が来ているのではないかと日々苦悩しています。

つきましては、高島の十八カ寺の八三二戸の檀信徒の皆様には、誠に恐縮ですが、一戸あたり一千五百円程度の供養袋を御奉納(ご協力)くださいますようよろしくお願い致します。

祈願事

高島の地の繁栄と安穩、各家の先祖代々追善家内安全、諸願成就等の祈願です。

前期定式割のご寄付のお願い

檀信徒の皆様には、玉泉寺をお守りいただき、感謝申し上げます。皆様方には、出費ご多端の折、恐縮ですが、四月から八月までのかか

る費用を檀信徒の数で割らせていただいた金額です。別紙の通りです。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

九月から十二月までの予定

○お彼岸

九月二十日(水) 彼岸入り

九月二十三日(土) 彼岸の中日

九月二十六日(火) 彼岸明け

○高島門共同大蔵経会法要

十月十四日(土)～十五日(日) 野田・妙楽寺

○御十夜 十一月十二日(日)午後七時

○永代施餓鬼会法要

十二月十日(日)午後二時より(後日、御十夜と永代施餓鬼会については案内書を配布します)

びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、ご一報下さい。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇―三七〇八―七二〇六

FAX (〇七七) 五〇二―二二七九

Eメール svka37375@leto.eonet.ne.jp

新Eメール info@gyokusenji.com

ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をごらん下さい。